

〔曲 名〕 Imitazione di un canto Arabo

アラビアの唄の模倣曲

〔曲 種〕

〔作曲者〕 G.Branzoli

ジユゼッペ ブランツォーリ

〔編 曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者は1845年イタリアのイモーラ（ボローアの東南30キロ）に生まれ

1909年1月21日ローマに逝いた著名なマンドリニスト、ギタリスト、作曲家。

郷里でヴァイオリンを研究し始めたが急速に著しい進歩を見せ間もなくヴァイオリン教授を初めボローニアに移って更に之を続けた。

作曲家として名を挙げるよりになったのは、ローマのアポロ劇場付きのオーケストラの第一ヴァイオリニストとなってからである。

1870年一子ピエトロを多を失って極度の憂鬱性にかかり楽器からも遠ざかったが、幸にも再び音楽の泉に浸るようになった。

事実彼は音楽によって悲しみを忘れようと努力したのだと云われる。

そして今度はマッシモ劇場場付オーケストラの指揮者となった。

特にローラのサン・チェチリア音楽学校が設立されるに就いては彼は異常な努力を憎まず、之が設立せられるや彼は和声楽の教授となった。

この学校の入口の石造物には今日も尚彼の名が刻まれていると云う。

彼は又一方フィルハーモニックソサティの指揮者兼弦楽器教師となり、

上記学校のロドルフォ・ベルヴィン教授と協力して音楽史の研究に没頭した。

彼がリュートの歴史的著述をしたのはこの時の研究によったものであろう。

そして数年間彼はこの学校の図書管理者をつとめていた。

ブランツォーリがマンドリン及びギターに対して抱いていた愛情はこの頃から漸く濃厚になり

遂に1907年1月15日ローマからIL Mandolino Romanoと称する小雑誌を発刊し、フレット楽器の歴史的記事を書いて掲載した。

之には勿論作家のマンドリンギター音楽の作品が紹介され、ブランツォーリ死後2年間継続発行された後廃

刊となった。

彼の著したマンドリン教則本は1875年ブランキから出版され、ボローニアで開かれた音楽博覧会に金牌を授与され、

更に1890年パリーで開かれた産業博覧会に改訂版が再び金牌を獲た。

この他にもマンドリンの為に著したショリディタ、リュート及其歴史、リュート教則本、ミラノ風マンドリン教則本があり、

いずれも著者の深い研究を示しているが就中彼がマンドリン愛護者として知られたマルゲリータ皇后（当時）に献じた

前記リュート教則本は最も価値高いものであろう。

彼はマンドリン合奏の為に曲も数多作曲したが、当時に在っては比較的冷淡に見過され、かのGiorno Desiatoの如き、ムニエルにもベルレンギにも見出されない優れたものがあったのである。他にもローマで上演された二種のオペラもあるが、

総体的に見ればマンドリンヴィルトウオーズとしてでなくフレット楽器研究家と云うのが至当であらう。

本曲はアラビアの唄を模倣した綺想曲であるが、

アラビア色よりはむしろブランツォーリの持味の方が強く出た作品でVenturiniから出版されたもの。

ピアノ曲からの編曲である。

1970年6月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第6集より